

ごあいさつ

あつという間にファミリーも設立7年目を迎えております。丸6年、寝ても覚めても犬猫の事を考えて活動して参りました。それが辛くも楽しくもありました。気がつけば、多くのボランティアさんが集まっており、まさに小さな力が大きな力となり、より多くの犬猫を助ける事が出来るようになっていました。

ボランティアさん達にはただただ感謝で、それだけ犬猫を想う人が多い事も実感します。テレビなどの影響で、ペットショップではなく、保護犬猫を家族に!という方も年々増え、譲渡数も伸びております。このように円滑に活動が出来るのも、一重に日々ご協力頂いております皆様のお陰です。本当にありがとうございます。

引き続き現在行っている活動に加え、今年度は「一般社団法人メゾンドファミリー」も立ち上げました。こちらは、現代社会の問題となっている高齢者が飼えなくなった猫の引き取りと、引きこもりの若者の就労支援を兼ねております。非営利団体で、いずれは犬猫の大型収容施設ティアハイムの設立を願ったものです。どうか「NPO法人ファミリー」と同様、「一般社団法人メゾンドファミリーへ」のご理解とご協力もよろしくお願い申し上げます。

NPO法人ファミリー 理事長 熊崎 純子

お知らせ 一般社団法人メゾンドファミリー設立

ティアハイム (Tierheim) をご存知ですか?ドイツでは、民間の動物保護協会が運営するこの施設が沢山の動物譲渡を行っています。

ファミリーも設立当時からティアハイム設立の夢がありました。しかしそれには人手も資金も必要です。お陰様で現在の活動も継続でき、名古屋市は犬の殺処分ゼロを達成しましたが、愛知県は程遠い状態です。野犬を引き出せる施設や、老猫が終生過ごせる場所があれば…。その夢に近づくためにこの度、一般社団法人メゾンドファミリーを立ち上げました。これは引きこもりの就労支援と、将来ティアハイムを運営するための組織・資金作りを目的とした非営利団体です。非営利ですが寄付金だけでなく、『飼い主様より有料にて猫の引き取り、犬猫フード等のネット販売や商品製作、ペットホテル運営』等、今までのノウハウを活かした事業を行いながら運営していきます。犬猫好きな引きこもりの若者たちにも手伝ってもらいます。フードや爪とぎなどの消耗品をメゾンのオンラインショップでご購入頂くだけでも支援になりますので、どうぞ応援よろしくお願い申し上げます。



▲保護犬を連れ、引きこもり支援施設を訪問しています(定期)



メゾンドファミリー www.maison-de-famille.org



オンラインショップ catsanddogs.theshop.jp

第6期 会計報告

平成29年8月1日から平成30年7月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
会費	2,664,498
寄付金	8,228,729
助成金	530,000
里親負担医療費	2,517,578

II. 経常費用			
1. 事業費		2. 管理費	
人件費	1,866,935	人件費	182,245
獣医等医療費	3,166,847	外注費	77,308
動物餌代	484,179	通信費	2,160
動物用消耗品費	545,883	保険料	15,600
外注費	121,629	支払手数料	57,602
交通費	198,390	寄付金	20,000
通信費	115,839	雑費	10,800
水道光熱費	40,092		
修繕費	75,600		
消耗品費	203,119		
地代家賃	3,416,998		
支払手数料	3,024		
会場運営費	129,543		
寄付金	150,000		
減価償却費	63,180		
雑費	4,680		

第6期 活動報告

[2017年]
 ペット博2017in名古屋 パネル展示(ポートメッセ名古屋) / 9月
 わんだらけ ブース出店(名古屋ベイサイド) / 9月・12月
 ロータリークラブ動物愛護講演(ホテルキャッスル) / 10月
 譲渡会(わんちゃんHOUSEまと) / 10月・12月
 子猫譲渡会(今池シェルター) / 11月

[2018年]
 譲渡会(わんちゃんHOUSEまと) / 2月
 わんだらけ ブース出店(名古屋ベイサイド) / 3月・6月
 防災&交通安全カーフェスタ2017 出店(モリコロパーク) / 3月
 子猫譲渡会(今池シェルター) / 6月・7月
 ファミリー設立7周年記念講演会(ウインク愛知) / 7月



ペット安心ネットワークファミリー倶楽部 (PANF) 事業報告
 [2017年]
 入会説明会 / 4月
 勉強会(相続)と入会説明会・交流会 / 6月
 勉強会(遺言)と交流会 / 7月
 勉強会(信託)と交流会 / 8月
 施設見学(老人ホーム)と交流会 / 9月
 勉強会(ペットとともに暮らす住まい)と交流会 / 11月



[2018年]
 交流会(ランチ会) / 1月
 入会説明会、規約改正説明会と交流会(花見) / 4月
 入会説明会 / 5月
 個別面談 / 6月

譲渡数 [猫] 102匹 [犬] 27匹

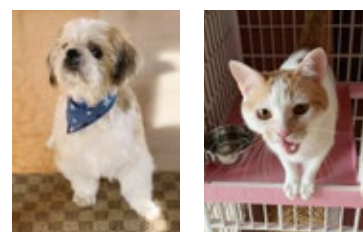
シェルター便り

秋より常駐スタッフとなりました中川です。私が約3年前初めてシェルターボランティアに来た時、衝撃的だったことがあります。それはシェルターにいる犬が、かつて「ブーム」と呼ばれた種類だったことです。一時のブームで人気になっても、時が経てば飽きられ、最後には捨てられてしまう現実を実感し、ショックでした。

ファミリーの犬猫たちは、様々な事情で家族を失い、心が傷ついた状態で治療もされずにいた子もいます。しかし、シェルターでボランティアさんのお世話を受けて過ごしていくうちに、少しずつ顔つきや身体つきが良くなっていくのを感じ、シェルターに来られて本当によかったと思わせてくれます。

犬猫たちは自分で飼い主を選べません。言葉こそ話せませんが、時間をかけて愛情を注ぎ、じっくり向き合えば、私たちに何を伝えようとしているのか分かり、かけがえのない時間をくれます。

動物を家族に迎えることに責任をもてる人が増え、人間の身勝手手でシェルターに来る子がいなくなることを願っております。



新人シェルター管理人 中川 千穂

しあわせ便り

犬と猫の里親になられた方からのお便りをご紹介します

[保護猫] ミトコ・オー君 (ミルク猫) [里親] 大矢様



家族みんなアレルギー持ちですが、動物が大好きな子どもたちと軽い気持ちで行った猫カフェが、保護猫カフェ「ヘミングウェイ」でした。仔猫の譲渡会があるとのことで、すっかりその気になってしまった子どもたち。初めての猫との暮らしで不安もありましたが、無防備に寝ている姿、ふにゃふにゃの柔らかい身体、その全てがみんなに癒しを与えてくれました。

子どもたちのアレルギーも徐々に落ち着いてきた頃、もう1匹の家族を迎える事に。2匹になると可愛さも倍増。寄り添って寝ている姿を見ると本当に幸せを貰えます。性格もそれぞれで、その違いがまた愛しくて。猫との暮らしを始めて、こんなにも癒されるとは。家族みんな、言葉通りメロメロです。

この子たちと暮らせるようになって本当に良かったと心から思います。動物たちを保護して下さるファミリーユさん、これからは沢山の動物たちが幸せを運んでいけることを祈っています。

[保護猫] このは・マライア・森君 [里親] 宮南様



今年の2月、飼っていた猫たちの最後の子が虹の橋を渡り悲しみに暮れていた頃、癒しを求め猫カフェの検索をしていて、ファミリーユさんを知りました。

カフェを訪問し、このはに魅了され里親の申し出を決めました。今までも犬猫の多頭飼いをしていたので、今回もと考えており、このはと相性のよい森君、その彼女のマライアの3匹とご縁を結ぶ事ができました。

大人猫はとてども慎重でそれぞれ個性がありましたが、女子2匹もだんだん距離が縮まり、お互いのお尻をくっ付けてお昼寝したり、ソファで3匹同居することも!

愛情に応えてくれる、そんな彼らと縁結びをして頂いたことに感謝し、そして保護活動をしているファミリーユさんには敬服致します。シェルターにいる子たちも、ほっこりできる家族に巡り逢えることを願っています。

[保護犬] ヨウちゃん [里親] 渡辺様



昨年の秋は寂しい秋でした。もうすぐ15歳の誕生日を目前にして我が家の尻尾のある家族が空へ逝ってしまった秋でした。悲しく寂しい日々を過ごしていました。新しい家族を迎える気持ちにもなれませんでした。

しかし今年のお正月過ぎにファミリーユさんの譲渡会のチラシを偶然拝見し、「この子に会いたい」と思い譲渡会に参加しました。こうしてヨウちゃんに出会った次第です。

久しぶり(15年ぶり!)の仔犬育ては緊張しましたが、今ではすっかり家族の一員。寂しかった家が明るくなりました。

ファミリーユのみなさんに繋いでもらったヨウちゃんの生涯をしっかり守ってあげたいと思っています。良いご縁をありがとうございました。

シェルターボランティア体験記

老犬シェルターは、不思議で、ほんわかして、そして、切ない。初めてシェルターを訪れた時、そこには不思議な空間が広がっていた。老犬たちは、「あんた誰?」というそぶりも見せず、私には殆ど無関心。それでも何回か訪れると、「来たの?」って感じて挨拶しに来てくれるようになり、中にはソヨソヨと尻尾を振ってくれるワンコもできた。そんな老犬たちのゆるーい感情表現が、シェルターのほんわかした温かさを醸し出しているのだろう。

そんなまったりしたシェルターでも悲しいことが起きる。老犬ゆえの宿命だけど、午前中は元気に歩いていたのに、夕方にはあっけなく亡くなってしまふ。今日普通に歩けたのに、翌々日には歩けなくなってしまふ。あまりに速い体の変化に、もっと早く異常に気付けなかったのかと悔しい思いを何度かした。

老犬達は病気や障害をそのまま受け入れ、穏やかに生きている。そして、彼らのほんわかした温かさがボランティアを癒してくれる。これって、老犬達が、人生の先輩として「こうやって生きていくんだよ」と教えてくれているような気がする。



シェルターボランティア 深津 喜明